参考資料3

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 4 3 － － 4	4 4 3 4 －	3.63
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 3 3 － － 4	3 3 3 4 －	3.38
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	5 5 4 － － 5	3 5 4 5 －	4.50
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	4 4 3 － － 4	4 4 3 4 －	3.75
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 2 － － 4	3 3 3 3 －	3.00
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				3.65

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

・データベースの公開に向けて努力しつつある。その努力が実り、公開されることを望みます
・学術的裏付けのある信頼性の高いデータを取得
・充分な基盤的研究は出ている模様
・メタボロミクス等への取り組みも積極的に進めるべきと考える。
・１８年度までに確立した基盤から期待されるものとして評価する。

疑問点、改善すべき点

・安全性バイオマーカとともに、ヒトへの外挿性は重要かつ、基盤研が独自に行う意義の高いテーマと考えます。息の長い研究を望みます。
・いつ、どこで、どれだけの成果が公開されるのか不透明。
・成果の公表が充分でない
　特許との関係を明確にすべきでないか
・独自性がみられないが、プロジェクトの体質からやむをえないのかもしれない
・ヒト外挿性を目的とした計画が充分準備されていないように見える（血液を使った計画は、中止も考えられているのにかかわらず）
・研究費は多く、activity も高いのに、publication は　それ程でない。

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　創薬プロテオミクスプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 5 5 － － 5	4 4 4 4 － 	4.50
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 4 4 － － 4	4 4 5 4 － 	4.13
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 5 4 － － 4	4 4 5 4 － 	4.25
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	5 5 5 － － 4	4 4 4 4 － 	4.38
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 5 4 － － 5	5 4 4 5 － 	4.63
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				4.38

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- 製薬メーカーとの協力により、基盤研の成果の実用化への努力がみられる
- いずれも新規性の高い基盤技術を創薬へ向けたプロジェクト
- 抗体プロテオミクスの成果は素晴らしいし、展開が期待しうる
- 抗体プロテオミクスの成果は高く評価できる。
- 診断薬開発には有用な成果である。高く評価できる
- 研究目標が定まっている

疑問点、改善すべき点

- 成果の特許申請を早急にすべき
- 医薬品開発へのアプローチが具体性に欠ける

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　代謝シグナルプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 3 － － 3	4 3 2 3 －	3.00
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	3 3 3 － － 3	3 3 3 3 －	3.00
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 3 3 － － 4	3 4 3 4 －	3.50
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	3 3 3 － － 3	4 3 3 4 －	3.25
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 2 － － 3	2 3 2 3 －	2.63
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				3.08

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

・苦しい所であり、研究計画を立派に立てていって欲しい。ユニークな遺伝子産物の研究であるだけに計画的研究推進を期待します。
・国際共同研究は評価しうる。
・SIK2-KO と他のマウスのかけ合せ動物の作成、SIK2-KO マウスに対する薬物の影響を調べるなどで、SIK2 function 解明を進めてはどうか？
・計画進め方は良かったが、結果的に期待通りでなかった。しかし、いくつかの興味あるデータを出しているので、展開方法を工夫して進めることが可能

疑問点、改善すべき点

・プロジェクトのストラテジーが不連続。
　シグナル分子の同定・機能解析を先ず確実にすることが必要。
・研究のポイントが不明確
　自己グループからの成果物が少ない
　プレゼンテーションの仕方が、お若いためか下手
・プロジェクトの焦点を絞るべきである
・potential は高いと思う。
・説明がよく理解できなかったのは、評価系がはっきりしていないことによると思われる

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　バイオインフォマティクスプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 4 － － 4	3 3 4 4 －	3.75
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 3 4 － － 4	3 3 4 4 －	3.63
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	3 4 3 － － 5	4 4 5 4	4.00
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	4 4 4 － － 4	4 3 4 4 －	3.88
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 4 3 － － 4	4 3 4 4 －	3.88
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				3.83

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- 基盤研にとっての情報基盤になりうる研究である。
- チャレンジングな領域の基礎から基盤研で進めていることは評価できる。
- テーマ・計画が明確に整理されている
- 予測の精度を上げて創薬に貢献できることを期待できる
- 構造を予測する方法論の開発・改良は活発で基盤研に有用である。但し、外部との共同研究の比重が高すぎる印象がある。

疑問点、改善すべき点

- 改善すべき点として、（今後の課題ではあるが、）医薬研究をはじめとする実験系との共同研究を精力的に進めていくといいと思います。
- Wet Labo との共同研究体制をしっかり組むこと。
- 具体的成果を期待したい
  発表は上手（プレゼン）
- 基盤研に有用であろうが、内部への contribution が少ない

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　感染制御プロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 5 3 － － 5	4 5 5 5 － 	4.63
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 4 4 － － 5	4 4 4 4 － 	4.13
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 4 5 － － 5	5 4 5 5 － 	4.63
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	5 5 4 － － 5	4 4 5 5 － 	4.63
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 5 4 － － 5	5 5 5 5 － 	4.88
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				4.58

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- 実用化を強く意識している。
- 実用性の期待できる成果を挙げている。
  今後の発展に期待する。
- 進捗はよい
- アジュバントのメカニズムに関する研究も望まれる。アジュバントパーティクルのサイズとアジュバント活性との関係は？
- 有用性の高い計画で順調に進展している。
  ヒトへの応用の為の　in vivo 実験系の開発が必要
- 着実にワクチン実用化に向かっている。
- 多方向について productive に研究がすすんでいる。
  ひとつひとつ、確実に成果を上げてほしい。

疑問点、改善すべき点

- 実用化へ向けた共同開発研究の推進
- adjuvant の有効性はよい成果だが、実用化に向けて安全性の preclinical study に向かうべき
- このまま進めれば良い。但し、基盤研の特色を出して欲しい

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　免疫シグナルプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 5 4 － － 5	3 5 4 5 － 	4.38
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	5 4 4 － － 4	3 4 3 4 － 	3.88
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 4 4 － － 4	4 4 4 5 － 	4.13
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	5 4 5 － － 4	3 4 4 5 － 	4.25
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 5 － － 5	4 5 3 5 － 	4.38
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				4.20

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- 臨床応用へ向けて研究を強化していって欲しい。
- 個々の成果はいずれも注目すべき基礎研究
- 抗サイトカイン療法の確立に貢献している
- 活発に研究を進めており、成果も出している。日本が誇る IL-6R 関連を主とした内容であり、多項目の中から選んでこのまま進めるべきであろう。
- 実績及び研究能力は秀れている。
- 重量級である。
  研究費は十分か？

疑問点、改善すべき点

- SOCS3 の臨床応用に絞った研究方向性を望む。
  大学（病院）での研究との切り分けをどうするか
- 疾患関連蛋白の研究は免疫シグナルプロジェクトではないと思われる。
- もう少しフォーカスを絞った方が良い。
  プロジェクトリーダーとして、責任をどれ位持っているか疑問
- プロジェクトがやや広がりすぎか？

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　免疫細胞制御プロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 3 － － 3	3 3 2 3 －	3.13
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	3 3 2 － － 3	3 3 2 4 －	2.88
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 2 3 － － 4	4 4 2 4 －	3.38
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	3 3 3 － － 3	3 3 2 4 －	3.00
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 2 2 － － 3	2 3 2 2 －	2.38
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				2.95

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

・人工 LN ができたことは注目すべき成果
・リンパ管の研究は遅れており、この領域で頑張っている研究姿勢は評価しうる。
・研究はまだ発展段階にあるが、独創性に富むものである。
・リンパ管再生自身には興味深く、有用な情報を与えている。

疑問点、改善すべき点

・人的な研究資源を強化すべきと考えます。
・本当に臨床応用が可能なのか疑問
・目的がもう一つ不明確。
　再生医療の領域である。
・生物学的には興味深いが、臨床にどのように持っていくかの解決がなされていない。
　基盤研の方向性としては、又スタッフ構成からプロジェクトの改変が必要か？
・発想がユニークであるが、人への応用が可能かどうか？

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部　遺伝子導入制御プロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 4 4 － 5	4 4 4 4 －	4.25
②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 4 4 － 4	5 4 4 4 －	4.13
③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 4 3 － － 4	4 4 3 5 －	3.88
④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	5 4 4 － － 5	4 5 4 5 －	4.50
⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	5 5 5 － － 5	5 5 4 5 －	4.88
総合評価（５点満点） 【①～⑤の平均点】				4.33

基盤的研究部　総合評価分布《平均３．８７　標準偏差：０．５７》

	総合評価（５点満点）								
	～2.99	3.00～3.24	3.25～3.49	3.50～3.74	3.75～3.99	4.00～4.24	4.25～4.49	4.50～4.74	4.75～5.00
プロジェクト数	1	1	0	1	1	1	2	1	0

（参考）

基盤的研究部　各項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		１点	２点	３点	４点	５点		
評価項目	①進捗度（成果）	0	2	18	28	16	3.91	0.80
	②計画の妥当性	0	2	23	35	4	3.64	0.65
	③学術的・社会的意義	0	2	10	36	16	4.03	0.73
	④継続能力	0	1	16	32	15	3.95	0.74
	⑤成果の普及	0	9	17	14	24	3.83	1.08

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- 基礎研究レベルでは多くの成果を挙げている。
- アデノベクターが漸次改良されている
  論文発表は多数である。
- 数々のユニークな研究成果が得られている。
- ad vector の開発は有用かつ良好な成果がみられる。
  Active な研究姿勢が publication からも伺われる。
- 遺伝子導入法に対し有用な成果を挙げており、他の研究への貢献が期待される。
- 早く実用化して欲しい。

疑問点、改善すべき点

- 問題点は次々に明らかにされているが、その先にはどんな問題があるのか？
- しかし、人に安全に使用できるものを作り上げ、臨床応用されることが目標。
  テーマが多くてどれが主眼か分かりにくい。
- 有用な成果を出しているので、前臨床試験系を開拓・整備が欲しい。
- 遺伝子治療への実践に応用する予定があるのかどうか？
- 新ベクターでは insert する遺伝子の長さに制限はないか？

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部　細胞資源研究室

評価項目・判定基準			委員の評点		平均
１．生物資源業務に係る業績		５０：極めて優れている。 ４０：優れている。 ３０：概ね妥当である。 ２０：劣っている。 １０：極めて劣っている。	40 40 30 45 －	40 － 45 45 －	40.71
２．生物資源研究に係る業績	①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 4 3 4 －	4 － 4 4 －	3.71
	②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 4 3 4 －	4 － 3 5 －	3.86
	③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 4 4 5 －	5 － 3 4 －	4.14
	④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	4 4 3 4 －	3 － 3 4 －	3.57
	⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 4 2 3 －	4 － 3 4 －	3.29
総合評価（１００点満点） （【１．生物資源業務に係る業績の評点】と 【（２．生物資源研究に係る業績（①～⑤）の評点）×２】の合計）					77.86

生物資源部門　総合評価分布《平均：７１．４０　標準偏差：１３．８４》

	総合評価（100 点満点）					
	49.9点	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
研究室・センター数	1	0	1	1	2	0

（参考）

生物資源部門　各評価項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		10～19 点 1 点	20～29 点 2 点	30～39 点 3 点	40～49 点 4 点	50 点 5 点		
事業評価		1	3	9	22	0	35.59	6.41
研究評価項目	①進捗度（成果）	0	5	10	19	1	3.46	0.77
	②計画の妥当性	0	6	10	16	3	3.46	0.87
	③学術的・社会的意義	0	2	13	13	7	3.71	0.85
	④継続能力	0	6	12	15	2	3.37	0.83
	⑤成果の普及	0	7	12	13	3	3.34	0.89

委員からのコメント（１．生物資源業務に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- 収集もよく努力をしており、保有資源の増加状況は良い。
- 微生物混入問題は重要で検査を進め警告を発信するなどの活動方針は評価できる。
- 画像データを含めて付加情報の整備および公開の方向性も良い。
- 理研でほぼ同程度の提供（約 3000）など、我が国の cell bank として必要性の高い事業である。
- 少ない人数でよく健闘している。より充実拡大していくことを願う。
- 最終的には日本としてひとつの cell bank としてまとまると素晴らしい！
- ヒト細胞で絶対的リードを目指してください。
- 疾患関連細胞の収集をより推進すべき。
- きちんとしたポリシーの下に高品質のリソース提供を進めていることは高く評価できる。
- 培養細胞の質を高めるための努力（ウイルス・マイコプラズマ感染のチェック、講習会など）は評価できる。
- 培養技術講習会は重要です。
- 公的な細胞バンクとしての活動は高く評価できる。広報・宣伝活動も活発である。研究者たちの自己犠牲的な努力に敬意を表する。

疑問点、改善すべき点

- iPS 細胞の導入計画は目的を明確にして進められると良いと思う。
- iPS 細胞、ES 細胞に関し、理研と東大バンクとの区別化をどうつけるのか
- HS 財団・理研のバンクとの違いを明確にすべきである
- 予算上はやむをえないかもしれないが、我国/世界でどのくらいの分担でするのか明確ではない。
- 日本全体のデータバンクのイメージをしながら基盤研の役割を明確にするとよい。
- 少人数で沢山の仕事があり大変であろうと思う。

委員からのコメント（2．生物資源研究に係る業績）
評価できる点、推進すべき点 ・マイコプラズマ汚染調査はニーズの高い研究である。 ・ヒト不死化 cell line の樹立も将来の貢献が期待できる。 ・ヒト疾患研究資源基盤整備も社会や科学への貢献できるプロジェクトである。HHV6 が integrate した all の発見など興味深い成果が出ている。 ・ウイルス検査は重要であるが、公的証明としていく方向性か？あくまでも private な物？ ・マイコ検査は全国研究室の実態からみて、大きな意味があろう。 ・不死化細胞確立は多くの研究分野への展開につながる。 ・ヒトに関連したものを全てカバーするように充実させて下さい。 ・細胞の品質についての学会への対応は、独自のものであり、学術的にも意義が高い。 ・ウイルス、マイコプラズマなどの検査は評価できる。質の問題を意識することが重要なので ・ウイルス検査、マイコプラズマの検査は重要 ・業務に関する良い研究をしていると思う。
疑問点、改善すべき点 ・行われている研究が散発的であるように見受けられる。研究室の方向性を明確にしてテーマを設定して欲しい。 ・査読論文は少ない（やむを得ないが） ・ヒト疾患研究資源所在情報は、倫理や利害調整を乗り越えて充実する方法を探って現実化して欲しい。 ・iPS 細胞にからむ研究の進行が気になる。 ・特許が取り難い分野であるが、この面での努力もして欲しい。

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部　遺伝子資源研究室

評価項目・判定基準			委員の評点		平均
１．生物資源業務に係る業績		５０：極めて優れている。 ４０：優れている。 ３０：概ね妥当である。 ２０：劣っている。 １０：極めて劣っている。	30 30 20 15 －	20 － 30 20 －	23.57
２．生物資源研究に係る業績	①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 2 2 －	2 － 3 2 －	2.43
	②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	2 3 2 2 －	2 － 3 2 －	2.29
	③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	3 3 3 2 －	3 － 3 3 －	2.86
	④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	3 3 2 2 －	2 － 3 2 －	2.43
	⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 2 2 －	2 － 3 2 －	2.43
総合評価（１００点満点） （【１．生物資源業務に係る業績の評点】と 【（２．生物資源研究に係る業績（①～⑤）の評点）×２】の合計）					48.43

生物資源部門　総合評価分布《平均：７１．４０　標準偏差：１３．８４》

	総合評価（100点満点）					
	49.9点	50.0～59.9点	60.0～69.9点	70.0～79.9点	80.0～89.9点	90.0～100点
研究室・センター数	1	0	1	1	2	0

（参考）

生物資源部門　各評価項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		10～19点 1点	20～29点 2点	30～39点 3点	40～49点 4点	50点 5点		
事業評価		1	3	9	22	0	35.59	6.41
研究評価項目	①進捗度（成果）	0	5	10	19	1	3.46	0.77
	②計画の妥当性	0	6	10	16	3	3.46	0.87
	③学術的・社会的意義	0	2	13	13	7	3.71	0.85
	④継続能力	0	6	12	15	2	3.37	0.83
	⑤成果の普及	0	7	12	13	3	3.34	0.89

委員からのコメント（１．生物資源業務に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

・カニクイザルのクローンを保持することは意義がある。
・ヒト疾患遺伝子の収集は評価できる

疑問点、改善すべき点

・知的財産権の整備は進めているか。
・ヒト遺伝子クローンも疾患に焦点をおいて収集するなど方向性をより明確に考えられてはいかがか。
・収集は、ヒト疾患関連遺伝子、患者集団ゲノム DNA 等、ヒトに関連した物に絞って、機能を拡大充実するか。
研究は、動物ー非人類霊長類に限るか、方向性も絞った方がよいのではないでしょうか
・このような領域（遺伝子収集、分子）は他にありませんか？
・基盤研の特色を生かすような資源を一層収集するよう努力してほしい。
・分譲数が少なすぎる。研究者コミュニティの要望に答えていないのではないか
遺伝子バンクが集中化が可能であるのでオールジャパンの施設に移すことも考えるべき。
・分譲が少ない。その原因を分析し、求められるバンク事業へと展開していただきたい。
・遺伝子バンクとしての機能を維持して行くことについて疑問です
・業務の遂行に対して熟意が感ぜられない。評価できる点は少ない。
・カニクイザルやチンパンジーなどよりもヒトの遺伝子資源が中心におかれるべきではないか。
本研究室を独立させる必然性が理解できない。

委員からのコメント（２．生物資源研究に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

・カニクイザル　cDNA クローンをとって整備することは、将来の霊長類を用いたヒト疾患研究に有用性が期待でき、有意義。内部連携を生かして作整でき良いプロジェクトである。サテライトマーカー整備も良い。より一層推進すべき計画である。
・カニクイの成績は高く評価しうる。
・カニクイザルの研究は一定の評価が出来るが、目的と戦略が明確でない。
・マカクの cDNA コレクションや発現解析は基盤情報として重要である。
・カニクイザルを用いた研究をまとまった形にすると意義が出てくる
・カニクイザルのマイクロサテライトマーカーの整備研究は評価したい。
・論文がいくつか出ていることは評価できる。

疑問点、改善すべき点

・iPS 細胞の樹立を目指す project は現在京大を中心に国家的支援が行われている中で、本研究室が行うのはいかがか
・着眼点は面白いと思うが、より active に方向性を定めて、成果を出しにいくことも必要でしょう。
・iPS 細胞に関する研究を基盤研で行う必要があるのか？
・全体のポリシーがない。
・iPS 研究は目的がわからない。
・iPS に取り組む目的はなにか
・iPS 細胞を使った研究の方向性をしっかり持って頂きたい。
・もう少し本来の業務とかかわりのある研究は出来ないか。霊長類センターとの合併も考えてよいのでは？

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部　実験動物開発研究室

評価項目・判定基準			委員の評点		平均
１．生物資源業務に係る業績		５０：極めて優れている。 ４０：優れている。 ３０：概ね妥当である。 ２０：劣っている。 １０：極めて劣っている。	35 35 30 40 －	30 － 40 30 －	34.29
２．生物資源研究に係る業績	①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 2 3 －	3 － 4 3 －	3.00
	②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	3 3 2 4 －	3 － 3 3 －	3.00
	③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	3 3 2 3 －	3 － 3 3 －	2.86
	④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	3 3 2 3 －	3 － 3 2 －	2.71
	⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	3 3 2 3 －	2 － 3 3 －	2.71
総合評価（１００点満点） （【１．生物資源業務に係る業績の評点】と 【（２．生物資源研究に係る業績（①～⑤）の評点）×２】の合計）					62.86

生物資源部門　総合評価分布《平均：７１．４０　標準偏差：１３．８４》

	総合評価（100点満点）					
	49.9点	50.0～59.9点	60.0～69.9点	70.0～79.9点	80.0～89.9点	90.0～100点
研究室・センター数	1	0	1	1	2	0

（参考）

生物資源部門　各評価項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		10～19点 1点	20～29点 2点	30～39点 3点	40～49点 4点	50点 5点		
事業評価		1	3	9	22	0	35.59	6.41
研究評価項目	①進捗度（成果）	0	5	10	19	1	3.46	0.77
	②計画の妥当性	0	6	10	16	3	3.46	0.87
	③学術的・社会的意義	0	2	13	13	7	3.71	0.85
	④継続能力	0	6	12	15	2	3.37	0.83
	⑤成果の普及	0	7	12	13	3	3.34	0.89

委員からのコメント（１．生物資源業務に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- ハムスター、マストシス、スナネズミ等様々な齧歯類の資源保持は特徴が出てよい。
- まだ設立して日が浅いが、よく活動していると考えられる。
- 有望な疾患モデルマウスが用意されている。成果についてはまだ分からないが、今後に期待したい。
- 資源の収集・供給は十分なされてきていると思う。
- 昨年よりは業務にかかわる基盤整備がされている。

疑問点、改善すべき点

- 疾患モデルとしては、もっと多数の系統を導入・開発する等、充実度を高めてはどうか？
- NC を中心とした他機関からより積極的に疾患関連マウスの収集に努めるべきである。
- わが国の中でどのような位置付けを考えるのかが不明確。
- バンク維持は大変だと思うので、質の高い研究への供給をするような検討も必要ではないか。
- この規模で今後も維持できるかどうか疑問です。
- 実験動物研究資源バンクとしての実質的な活動は高くない。一層の努力を要する。

委員からのコメント（２．生物資源研究に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- ハムスターの卵巣凍結による系統保存法の開発は他になく良い。
- 疾患モデルマウスについて、さらに有用性を高める研究もしており、良い方向である。
- 臨床サイドからヒントを得て、新しいモデルを自ら作り出す努力を重ねて下さい。
- 着実に進んでいるが、広がりすぎの面がある。
- バンク事業に関連する研究の充実をお願いしたい。
- 論文はとりあえず出ている。

疑問点、改善すべき点

- 研究活動が業務活動とあまり区別できない。
- テーマが散漫である。
- 運営費交付金全配分額が対象の割には、他と比べて少ないのではないか。
- モデル動物の種類（種として、疾患として）の意味をより明確にして、成果につながる研究に絞っていくとよい。
- モデル動物/研究員が大きすぎる様である。
- もう少し本来の業務とかかわりのある研究にシフトして欲しい。

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

薬用植物資源研究センター

評価項目・判定基準			委員の評点		平均
１．生物資源業務に係る業績		５０：極めて優れている。 ４０：優れている。 ３０：概ね妥当である。 ２０：劣っている。 １０：極めて劣っている。	45 40 40 45 －	40 － 45 45 －	42.86
２．生物資源研究に係る業績	①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 4 4 －	4 － 4 4 －	4.00
	②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 4 3 4 －	4 － 4 4 －	3.86
	③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	5 4 4 4 －	5 － 4 5 －	4.43
	④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	4 4 4 3 －	4 － 4 4 －	3.86
	⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 3 4 －	5 － 4 4 －	4.00
総合評価（１００点満点） （【１．生物資源業務に係る業績の評点】と 【（２．生物資源研究に係る業績（①～⑤）の評点）×２】の合計）					83.14

生物資源部門　総合評価分布《平均：７１．４０　標準偏差：１３．８４》

	総合評価（100点満点）					
	49.9点	50.0～59.9点	60.0～69.9点	70.0～79.9点	80.0～89.9点	90.0～100点
研究室・センター数	1	0	1	1	2	0

（参考）

生物資源部門　各評価項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		10～19点 1点	20～29点 2点	30～39点 3点	40～49点 4点	50点 5点		
事業評価		1	3	9	22	0	35.59	6.41
研究評価項目	①進捗度（成果）	0	5	10	19	1	3.46	0.77
	②計画の妥当性	0	6	10	16	3	3.46	0.87
	③学術的・社会的意義	0	2	13	13	7	3.71	0.85
	④継続能力	0	6	12	15	2	3.37	0.83
	⑤成果の普及	0	7	12	13	3	3.34	0.89

委員からのコメント（１．生物資源業務に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- 日本唯一の薬用植物センターとして、収集、保存、情報整備等、優れた活動状況である。
- データベースの作成、公表も良い。
- ４ケ所にわたる施設での業務をよくまとめて種々の改良を重ねている点は高く評価します。また、海外への種子配布実績もよくやっているといえる
- 種子保存の役割は重要である。
- 特色ある事業を良くやっている。
- 網羅性、ユニーク性いずれをとっても我国唯一であり、存在意義の高い事業である。
- 薬用植物資源という明確な切り口で必要な業務を進めている。
- 国内唯一の薬用植物資源センターとしての保存、栽培事業は地道によくやられていると思います。
- 多くの国に数多くの種子を配布している努力は高く評価できる。

疑問点、改善すべき点

- 国内生産にむけて検討してはいかがか。
- 地域の人たちに対する広報・宣伝活動も行って欲しい。

委員からのコメント（２．生物資源研究に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- 栽培法、遺伝子導入法、大量栽培法等々、研究面でも着実に成果がみられる。それらの実用的な面での展開は？
- 多方面で成果が出ている。遺伝子研究はロジックが今いち。地理的なものがあるが、基盤研の力をもっと使えないか？
- 国内唯一のセンターとしての努力を評価する。
- 一般的な育種・栽培研究は確かな方法であり良いと思う。
- 少ない人員の中で特許を取ったことは評価できる。
- 抗リーシュマニア薬の開発研究にも期待できる。

疑問点、改善すべき点

- 薬用植物に関する研究が順調に行われているが、創薬の観点からの研究をより推進して欲しい。
- 知財の取得により一層努力して欲しい。
- 遺伝子改変研究には多少疑問がある（材料によると思う）。
- 開発途上国の研究者の積極的な受け入れや、国内外の機関との共同研究がさらに活発に行ってもらいたい。

平成２０年度外部研究評価委員会評価結果

霊長類医科学研究センター

評価項目・判定基準			委員の評点		平均
１．生物資源業務に係る業績		５０：極めて優れている。 ４０：優れている。 ３０：概ね妥当である。 ２０：劣っている。 １０：極めて劣っている。	40 40 40 45 －	45 － 45 40 －	42.14
２．生物資源研究に係る業績	①進捗度（成果） ー中期計画・年度計画を勘案して、当該年度における研究（事業）の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	５：極めて良好である。 ４：十分に良好である。 ３：概ね良好である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 4 4 －	4 － 4 5 －	4.14
	②計画の妥当性 ー今後事業を進めていく上で問題点はないか、問題点がある場合には計画、等の変更が必要か、その際にはどのように変更又は修正すべきか。	５：極めて妥当である。 ４：十分に妥当である。 ３：概ね妥当である。 ２：やや妥当性を欠き、努力を要する。 １：妥当性を欠く。	4 4 4 5 －	5 － 4 4 －	4.29
	③事業の学術的・社会的意義 ー事業の学術的・社会的意義がどの程度あるか。	５：非常にある。 ４：かなりある。 ３：ある程度ある。 ２：あまりない。 １：ほとんどない。	4 4 4 5 －	5 － 4 4 －	4.29
	④継続能力 ー研究者の構成や施設の設備から見て、事業目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	５：非常に高い。 ４：高い。 ３：平均的である。 ２：低い。 １：ほとんどない。	4 4 4 4 －	5 － 4 5 －	4.29
	⑤成果の普及 ー学術誌への発表、学会での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	５：積極的に取り組んでいる。 ４：十分な取り組みが見られる。 ３：概ね妥当である。 ２：やや不十分であり、努力を要する。 １：極めて不十分である。	4 4 4 5 －	4 － 4 5 －	4.29
総合評価（１００点満点） （【１．生物資源業務に係る業績の評点】と 【（２．生物資源研究に係る業績（①～⑤）の評点）×２】の合計）					84.71

生物資源部門　総合評価分布《平均：７１．４０　標準偏差：１３．８４》

	総合評価（100点満点）					
	49.9点	50.0～59.9点	60.0～69.9点	70.0～79.9点	80.0～89.9点	90.0～100点
研究室・センター数	1	0	1	1	2	0

（参考）

生物資源部門　各評価項目の評点分布

		評点					平均	標準偏差
		10～19点 1点	20～29点 2点	30～39点 3点	40～49点 4点	50点 5点		
事業評価		1	3	9	22	0	35.59	6.41
研究評価項目	①進捗度（成果）	0	5	10	19	1	3.46	0.77
	②計画の妥当性	0	6	10	16	3	3.46	0.87
	③学術的・社会的意義	0	2	13	13	7	3.71	0.85
	④継続能力	0	6	12	15	2	3.37	0.83
	⑤成果の普及	0	7	12	13	3	3.34	0.89

委員からのコメント（１．生物資源業務に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- 霊長類を多数飼育し医学研究に用いることのできる極めて限られた施設である。
- 繁殖効率化が　SRV/D の排除など重要でよく推進している。
- 国内唯一の医学実験用霊長類センターとして、よく活動している。業務も精一杯行われており、次の計画の中で空地を利用しての時代に沿った施設を拡大充実できるように期待する。
- 良くやっている。
- 規模・内容とも充実している。
- 受胎能力をあげる努力は意味があり、評価できる。
- 目標に沿った、事業の推進がなされている。
- 多数のカニクイザルの供給を行っており、高く評価できる。

疑問点、改善すべき点

- 霊長類への需要は今後増すので、外部利用への道を更に開いて欲しい。
- 業務よりも研究の方に著しくウエイトが置かれている気もするが、業務をなおざりにしないで欲しい。

委員からのコメント（２．生物資源研究に係る業績）

評価できる点、推進すべき点

- 霊長類でヒトの様々な疾患研究が推進できる極めて限られた施設であり、個々に優れた研究が行われている。
- 種々の課題に積極的に取り組んでいる点は高く評価しうるでしょう。
- スペースは２５年以上前の設計によるものであり、バイオセーフティ上の諸問題をクリアーして、施設の状況をぜひ改善していくことを望みます。
- 良くやっている。
- 広い範囲で順調に成果が上がっている。
- 他では不可能な霊長類ならではの実験ができる利点を生かし、積極的なモデル開発と研究をしており期待できる。
- モデル開発も順調である。
- 共同利用も十分。
- この面での研究レベルは高い。研究活動に関する限り、優れている。小原先生のツパイの業績もあるが、Ｃ型肝炎ウイルスのマーモセット感染研究は特に高く評価できる。

疑問点、改善すべき点

- いろいろな種類の病原体に対して、サルでの感染実験が対応可能な施設に改良していただけるとさらに良いと考える。
- 今後新たな共同開発をしようとすると、施設・設備の拡充が必要かもしれない。